

第 9 回猪苗代町議会定例会 町長説明要旨

開会：令和 7 年12月2日(火)

令和 7 年第 9 回猪苗代町議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、何かとご多用の中ご出席いただき、ご審議をお願いできますことに対しまして、深く感謝申し上げます。

提出議案等の説明に先立ち、当面する町政の諸課題につきまして、所信の一端を申し上げたいと存じます。

(令和 8 年度予算編成方針について)

はじめに、令和 8 年度予算編成方針について申し上げます。

内閣府発表による 10 月の経済報告では、「景気は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、緩やかに回復している。」とし、先行きについては、「雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、物価上昇の継続による消費者マインドの下振れが懸念され、個人消費に及ぼす影響が国内の景気を下押しするリスクとなっている。金融資本市場の変動等の影響に引き続き注意する必要がある。」としております。

また、6 月に閣議決定された「経済財政運営と改革

の基本方針 2025」に基づき、総務省は 8 月に「令和 8 年度の地方財政の課題」を公表しました。それによると、「地方創生 2.0 や D X ・ G X の推進、防災・減災対策の取組を強化するほか老朽インフラの適切な管理や地域医療提供体制の確保など、活力ある持続可能な地域社会の実現等に取り組むこととしています。その上で地方の安定的な財政運営に必要な一般財源の総額について、令和 7 年度地方財政計画の水準を下回らないよう予算を確保する。」としております。

一方、福島県が発表した「最近の県経済動向」による県内 10 月期の経済情勢は、前月の総合判断同様「景気は足踏み状態となっている。」と報告されております。

また、福島県の令和 8 年度当初予算編成方針の基本的な考え方は、「総合計画に基づく力強い復興と福島ならではの地方創生を加速化するとしているほか、急激に進む人口減少への対応、物価高騰や労務単価の上昇への対応、自然災害を踏まえた防災力の強化など、国の動きを踏まえた効率的・効果的な予算編成が求められる。」と示しております。

さて、本町の財政状況は、歳入の根幹である町税収入は令和 8 年度以降も増収を見込むのは厳しいと思われます。国の令和 8 年度概算要求時の地方交付税総額は対前年度比 2 % の増額となっておりますが、約 19

兆3千億円で、臨時財政対策債の計画額は、ゼロと示されたことから、普通交付税との関連を含め、今後も国の動向を注視していかなければなりません。

これに対し歳出は、限られた財源を有効に活用するため、経費の削減と見直しを行い、行政のスリム化に努めておりますが、扶助費等の義務的経費は増加傾向にあります。また、都市計画及び生活関連道路などの社会資本整備、人口減少・少子高齢化対策など多額の財政需要が見込まれております。

このような中、令和8年度は振興計画に位置付けた事業であってもこれまで以上に事務事業の選択を、慎重かつ厳正な重点選別を行っていく必要があると考えます。

こうした中で、本町の主要産業である観光業は、冬期間に積雪量が多かったことから観光目的の団体客等は減少したものの、町内スキー場の入込客数は増加しており、本年1月から9月までの主な観光施設の延べ入込客数は、約198万人となり、前年同期の約194万人と比較して、約2%、約4万人の増加となっています。

農業については、米価は高値が続いているものの、物価高により生産コストが高騰していること、また、米価高騰が続けば、消費者の米離れによる米価の下落が危惧されることなど、農業を取り巻く環境は引き続き大変厳しい状況にあるため、今後の政府の米政策の

動向などに注視が必要です。農業経営の安定確保に加えて、未だ根強く残る風評の払拭と本町農畜産物のブランド化の一層の推進や競争力強化に取り組んでまいります。

（新型コロナウイルスワクチンの定期接種について）

次に、インフルエンザワクチン・新型コロナウイルスワクチンの定期接種について申し上げます。

「65歳以上の高齢者」や「60歳から64歳までの基礎疾患を有する方」を対象として、例年、10月から接種費用の助成を行っております。昨年度までは接種費用の半額を自己負担していただいておりますが、今年度はさらに自己負担額を少なくする等、より多くの方に接種していただけるように体制整備しております。

10月末までの実績は、
インフルエンザワクチンが518件
新型コロナウイルスワクチンが65件となっており、
インフルエンザワクチンについては、昨年度の倍近く
の接種件数となっております。

（水稲とそばの収穫状況について）

次に、水稲とそばの収穫状況について申し上げます。

水稲の収穫状況は、農林水産省が10月25日現在で、福島県の作況単収指数を「102」、会津地方も「102」と公表しております。

品質については、11月13日現在のJAの集荷・買入実績で、JA会津よつば全体の一等米比率が92.1%であったのに対し、本町産の一等米比率は97.3%で、管内平均を5.2ポイント上回る結果となりました。

今後、生産者の方々と協力しながら、本町産米の高品質化・ブランド化を図り、消費者に選ばれる競争力のある産地づくりを進めてまいります。

次に、そばの収穫状況は、刈り取り申込み面積が240ヘクタール、荷受重量は139トンで、昨年より15トン増加いたしました。

今年は高温が続いた影響により、例年を下回る収量となりましたが、そば乾燥調製貯蔵施設に搬入された玄そばの品質につきましては、等級検査の結果、全て一等となっており、先月、開催された「第29回猪苗代新そば祭り」におきましては、県内外の多くのお客様にご来場いただき、好評をいただいたところであります。

(鳥獣害対策について)

次に、全国的に問題となっている鳥獣害対策、ツキノワグマについて申し上げます。

福島県では中通り・会津地域に発令していた「ツキノワグマ出没特別注意報」を9月11日に「ツキノワグマ出没警報」に切り替え、12月15日まで継続しています。

町内のクマの目撃数につきましては、昨年の3倍になっており、例年9月中旬頃に落ち着く目撃情報が、本年は11月に入っても寄せられ、日中に人家近くで目撃されるなど、危険度が高い出没が多くなっています。このため10月20日から防災無線で町民の皆様にご注意喚起を行ってまいりました。

なお、ツキノワグマは随時捕獲しており、11月19日時点での捕獲数は32頭で、昨年の約1.5倍となっています。

今後も、「獣マップ」による的確な情報提供するとともに、有害鳥獣駆除員と連携を図りながら、ツキノワグマやイノシシなどによる鳥獣害対策への取り組みを継続的に実施してまいります。

（雇用情勢について）

次に、雇用情勢についてですが、厚生労働省福島労働局によると、県内の来年3月卒業予定の高校生の求職者数は9月末現在で3,343人、これに対し求人数は9,060人と求人倍率は2.71倍となっております。会津地域に限ってみると、

求職者数 4 4 4 人に対し、求人数は 1, 1 5 1 人で求人倍率は 2. 5 9 倍となっております。

町としましても、町内企業に若者の雇用拡大を図るため、「新規学卒者等就職支援奨励金」等の周知に努めると共に、町無料職業紹介所で求職者への相談窓口の充実と最新の求人情報を提供してまいります。

(経済対策及び観光振興について)

次に、経済対策及び観光振興について申し上げます。

町の商工観光事業を取り巻く経済状況は物価高騰などの影響により今もなお厳しい状況にあります。そのため、町内での消費購買の活性化を図るため、昨年度に引き続き、1セット 2 千円の「30%プレミアム付き電子クーポン」を販売しているほか、生活者応援による消費拡大と事業者支援を目的として、町民向けに1セット 5 千円の「20%プレミアム付き野口英世ふるさと商品券」を販売し、完売しております。

これから、冬期間の観光産業であるスキーシーズンを迎えますので、引き続き、町内経済の活性化と観光の振興を図ってまいります。

(本町の学校教育について)

次に本町の学校教育について申し上げます。

猪苗代中学校においては運動部の活躍が目覚ましく、特に駅伝部においては10月の県大会では男子が7位、女子が2位となり、女子については11月に秋

田県で開催されました東北大会に出場し、7位という好成績を収めたところであります。

小学校については、11月10日に後藤議長をはじめ、議員の皆様のご協力をいただきながら、子ども議会を開催いたしました。子どもたちから町の将来を見据えた質問や、貴重な意見をいただき、町としましても町の未来を担う子どもたちからの提言を、一つでも多く実現できるよう努めていこうと思います。

また、猪苗代高校の全国公募ですが、11月に留学生の申込受付を行い、8名の申込者があったところであります。選考については、今月中に面接を行い、1月中旬には留学生認定の結果について通知を行う予定としております。

町としましては、来年4月からの留学生受入れ体制に万全を期すこととし、猪苗代高校、福島県教育委員会と連携し、スムーズな受入れが出来るよう取り組んでまいります。

(文化・スポーツの推進について)

次に、本年10月以降の文化・スポーツの振興について申し上げます。

「母と子の絆づくり」を通して本町の取組を全国に発信する「母から子への手紙コンテスト」事業は、今年で24回目を迎え、全国から1,355作品の応募をいただき、今月7日に、表彰式を行うことになってい

ます。

また、図書歴史情報館「和みいな」においては、町民の読書活動を推進すると共に、季節のイベントとして「ハロウィン」や中学生・高校生が様々な分野の本に触れ、本の魅力を発表する「ビブリオバトル」を開催いたしました。

今後もしさまざまな文化事業を通して、町民の皆さんと共に、文化の香り高い町づくりに努めてまいります。

次に、スポーツ振興について申し上げます。

10月23日に、開催されました「福島県高等学校駅伝競走大会」は、本町での開催が12年連続で通算15回目となり、男子24チーム、女子16チームの参加によって熱戦が繰り広げられました。

また、11月16日に開催した「第37回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会」では、総合12位、町の部3位と昨年を上回る成績を収めることができ、今後につながるものと大いに期待しております。関係者各位のご協力とご尽力に厚くお礼申し上げます。

次に、昨シーズンまで開催しておりました「全日本スキー選手権大会（アルペン競技スピード系）」「全日本学生スキーチャンピオン大会」「全日本学生スキー選手権（インカレ）」は、3年間の大会を無事終了したところですが、今年に入り主催者である公益社団法人全日本学生スキー連盟から、引き続き猪苗代町での開催要望があり、福島県スキー連盟をはじめ関係団体

と協議を重ねた結果、新たに本年度から3年間、本町で開催することで準備を進めております。

3大会を3日間に分けて、全国からそれぞれ約200人の学生選手や一般選手がエントリーし競い合う、他では見られない競技となります。町としても大会の開催をとおしてスキー競技の振興と地域の活性化に努めてまいります。

(提出案件について)

最後になりますが、本定例会に提出いたします案件は、

- ・令和7年度の一般会計、特別会計及び事業会計に係る補正予算案件が6件、
- ・条例の一部改正案件が1件の計7案件であります。

各議案の細部につきましては、それぞれ所管する担当課長に説明いたさせますので、慎重にご審議の上速やかなご議決を賜りますようお願い申し上げます。